

講座名（専門科目名）	内科学講座（腎臓内科学）	教授氏名	猪阪善隆
学生への指導方針	下記のサブグループに属していただき、グループリーダーが責任をもって指導します。		
学生に対する要望	腎臓内科医としての臨床経験がある方を歓迎します		
問合せ先	(Tel) 06-6879-3857 (Email) kidney@kid.med.osaka-u.ac.jp	担当者	松井 功
その他出願にあたっての注意事項等	特にありません		

腎臓内科学教室は、昭和 30 年に故阿部裕先生（本学名誉教授）が創設された第一内科腎臓研究室に端を発します。その後、平成 17 年に老年・腎臓内科学講座（荻原俊男教授）に統合されたのち、平成 27 年 10 月、創設 60 年目の節目に単独の講座として開講いたしました。医局は平成 28 年 2 月に現在の臨床研究棟 2 階に移転し、現在に至っています。

当科は、国際的にも日本国内においても腎臓学研究と診療のリーダーです。基礎・臨床の双方向トランスレショナルリサーチを基軸とし、最新の技術を用いて腎臓病進展メカニズムと診断・治療法開発に取り組んでいます。以下当科で行っている研究の一端を紹介します。詳細は大阪大学腎臓内科 HP をご覧ください (<https://www.med.osaka-u.ac.jp/pub/kid/kid/index.html>)。

オートファジーグループでは、遺伝子改変マウス等を用いて、定常状態や種々のストレス下で、尿細管オートファジーが腎保護に重要な役割を果たすことを証明してきました。さらに研究を進展させ、現在では加齢や脂質代謝異常、糖尿病状態において停滞する尿細管オートファジーの制御メカニズムの解明と治療および臨床応用へ向けて研究を続けています。

CKD-MBD (Cutting-edge Kidney Dynamics – Multimodal Bioinformatics and Drug-discovery) グループでは、腎臓が織り成す臓器内および臓器間の時空間動態を最先端の視点から捉えるために、先進的イメージング技術、シングルセル解析、人工知能などの多様なバイオインフォマティクス技術を駆使し、腎疾患の病態解明および治療法開発を目指した研究を行っています。

腎疾患臓器連関制御学グループでは、大阪大学腎臓内科関連施設の CKD 患者の大規模データセット Osaka Consortium for Kidney Disease Research(OCKR) を構築し、種々のクリニカルクエスションに答えを導き出す最新の統計解析を駆使した臨床研究を行っています。また、公募研究、前向きコホートや介入研究にも精力的に取り組んでいます。

疫学グループは、本学キャンパスライフ健康支援センターを本拠として、様々な施設と共同で、改善可能な生活習慣や薬物治療が CKD の発症・進行にどのような影響を及ぼしているかを、疫学的手法を用いて明らかにしています。数万~数十万人規模の職域・一般住民健診受診者、腎炎やネフローゼ症候群などの CKD 患者コホートのデータを対象にしております。

熱意ある学生さんの応募をお待ちしております。